

平成23年度（第2期）

事業計画

自 平成23年4月1日
至 平成24年3月31日

公益財団法人オイスカ

I. 海外開発協力事業	3
II. 「子供の森」計画事業	7
III. 人材育成事業	8
IV. 啓発普及事業	15
V. 収益事業およびVI. 組織の運営	24

I. 海外開発協力事業

予算規模：183,993,000円

目的	開発途上国において、地域住民が主体となり、生活基盤である自然環境を保全するとともに、地域資源を最大限に活かして地域内での生産性を高め、十分な収入を得るだけの産業を育成し、開発途上地域における環境保全型の持続可能な地域社会の形成を目指す。
実施国 (実施地域数)	13カ国 32地域：主に東南アジア、南太平洋地域諸国 バングラデシュ (2)、フィジー (3)、インド(2)、中国 (内モンゴル) (1)、インドネシア (7)、マレーシア (2)、モンゴル (1)、ミャンマー (2)、パプアニューギニア (1)、フィリピン (6)、スリランカ(1)、東ティモール (2)、タイ (3) 等
事業概要	<p>途上国が抱える貧困問題を根底から解決するべく、環境保全、人材育成、地域開発などあらゆる角度から総合的にアプローチする。特にこれまで以上に、それぞれの活動が有機的につながるようにし、事業全体の効果・効率の向上を図る。</p> <p>1) 自然再生・保全活動 (1980年からの継続事業)</p> <p>➤ 目的： 森林の荒廃や砂漠化、沿岸部の環境劣化等の自然環境劣化の進む地域において、住民参加型による持続可能な環境保全活動を行い、環境の荒廃の防止および回復、生物多様性の保全さらに森林や土壌の自然再生機能を高め、もって地域内の生産性の向上および生活資源の適切な管理を促し住民生活の改善に寄与する。</p> <p>➤実施地域：11カ国 20カ所 ➤受益対象：青少年を含む地域住民等 約 36,000名 ➤植林予定面積：約 500ヘクタール (陸地、沿岸地含め) ➤活動内容： 緑化活動、マングローブ・サンゴ保全、砂漠化防止活動などを地域の特性に応じて実施。苗木管理、植栽、事後管理、モニタリングなどの工程のすべてにおいて地域住民が主体となり実施。環境保護への住民意識の高揚のため研修会やワークショップ等を開催し地域社会に根付いた事業に発展させ持続可能な活動とする。</p>

2) 人材育成活動 (1969年からの継続事業)

➤ 目的:

開発途上国の農漁村の青少年を対象に、コミュニティーの生活向上・自然環境保全等持続可能な開発に貢献できる知識、技術技能等を修得し、地域社会の指導的な役割を果たしていく人材として育成する。

➤実施場所: 8カ国9カ所の研修施設ほか

➤対象者: 各国の地域発展の牽引役となり得る農村社会の青年及び農業機関関係者等、男女約700名を主に対象とする。修了後は農村地域振興活動を推進していく上で、指導的な立場に立って人材の育成指導・地域社会の農業普及に携わっていく。

➤研修内容:

- * 有機農業技術の習得、農産物の加工・マーケティング、環境保全の知識・技術、保健衛生、語学学習、リーダーシップ研修、プロジェクトマネジメントなど地域発展に必要な知識・技術、そして資質等、複合的な研修の実施。
- * 環境保全・地域開発等の各種プロジェクトにかかる地域住民組織や教育機関等への巡回指導訪問等
- * 人材育成活動の一環として、地域開発の拠点としての役割を担っている現地カウンターパートの研修施設基盤強化のため、現地スタッフ育成ならびに施設や機材供与等の基盤整備の充実を行う。

3) 持続可能な産業の開発/促進活動 (1969年からの継続事業)

➤目的: 開発途上国における農漁村地域の開発促進。

➤実施場所: 5カ国6カ所の研修施設ほか

➤対象者: 青少年含む地域住民約2,200名対象

➤内容:

- * 地場産業の育成、施設整備、機材供与
- * 地域の特性に応じた技術の実践および普及
- * 地域開発基盤強化のための学校等の教育施設の整備
- * 農業灌漑設備の整備等の基盤整備

	<p>4) 各活動の評価及び調査研究</p> <p>事業をより効果的に実施できるよう質の向上と有機的な繋がりを図るための調査研究を実施しプロジェクト形成等を図る。また各活動の地域社会への裨益及び相乗効果を測定するための評価を実施し、次年度以降の事業等へ反映をさせていく。</p>
<p>海外カウンターパート</p> <p>バングラデシュ： 中 国： フィジー： イ ン ド： インドネシア： マレーシア： モンゴル： ミャンマー： パプアニューギニア： フィリピン： スリランカ： 東ティモール： タ イ：</p>	<p>オイスカ・バングラデシュ総局、バングラデシュ研修生 OB 会</p> <p>内蒙古自治区阿拉善盟政府、中国緑化基金会、オイスカ・カレッジリミテッド</p> <p>フィジー・教育/国家遺産/文化/芸術/青年スポーツ省青年スポーツ局、オイスカフィジー研修生 OB 会</p> <p>インド各州政府（デリー、ハリヤナ、ウットラ・プラデシュ、ケララの各州）、オイスカ北インド支部、オイスカ南インド支部</p> <p>インドネシア外務省、オイスカ・インドネシア研修生 OB 会、オイスカ・インドネシア総局</p> <p>KPD（サバ州農林開発公社）、オイスカ・マレーシア総局</p> <p>オイスカ・モンゴル総局</p> <p>ミャンマー農業灌漑省、ミャンマー農業公社</p> <p>パプアニューギニア東ニューブリテン州政府、オイスカ PNG 協会</p> <p>フィリピンボランティア調整局、西ネグロス州バゴ市政府、ヌエバビスカヤ州政府、OTTAA（オイスカ研修生 OB 会）、オイスカ・フィリピン総局</p> <p>オイスカ・スリランカ総局、研修生 OB 会</p> <p>東ティモール・ベテラン協会（退役軍人協会）</p> <p>オイスカ・タイ総局</p>
調整員・技術員派遣予定数	17名
国別主要支援案件一覧	*カッコ内は実施地域
バングラデシュ：	人材育成活動支援（ダッカ市 バングラデシュ研修センター） マングローブ植林活動（チッタゴン市周辺）

	調整員・技術員派遣
中 国 :	内モンゴル沙漠化防止活動（内モンゴル自治区阿拉善盟） 植林活動（貴州省、海南省）
フィジー :	サンゴ礁保全活動（ビチレブ島沿岸等） マングローブ植林活動（ビチレブ島沿岸） 人材育成活動支援（ビチレブ島 青年スポーツ局研修施設内・OB会モデル農場） 調整員・技術員派遣
イ ン ド :	現地カウンターパートの緑化活動後方支援（首都圏周辺） 現地カウンターパートの緑化活動推進・人材育成活動後方支援（ケララ州等）
インドネシア :	マングローブ植林活動（ジャワ島沿岸 7 地域） トヨタ車体支援植林活動（ジャワ島西部） 西部ジャワ植林活動（ジャワ島西部） 中部ジャワ植林活動（ジャワ島中部） 人材育成活動支援（ジャワ島西部 スカブミ研修センター） 人材育成活動支援（ジャワ島中部 カランガニアル研修センター） 中部ジャワダマック県地域開発基盤整備活動（ジャワ島中部） 調整員・技術員派遣
マレーシア :	キリム村・ロハン村植林活動（サバ州）
モンゴル :	緑化活動（ウランバートル周辺）
ミャンマー :	人材育成活動支援（パコック県 ミャンマー農林業研修センター） 調整員・技術員派遣
パプアニューギニア :	熱帯保全・定置型有機農業普及活動（東ニューブリテン州） 人材育成活動支援（東ニューブリテン州ラバウル・エコテック研修センター） 調整員・技術員派遣
フィリピン :	フィリピンふるさとの森づくり活動（パナイ島）

	<p>マングローブ植林活動（ルソン島南部等）</p> <p>ヌエバビスカヤ植林活動（ルソン島中部）</p> <p>ビサヤス水源地植林活動（ネグロス島）</p> <p>ネグロス養蚕普及活動（ネグロス島）</p> <p>デイケアセンター支援活動（ネグロス島他）</p> <p>調整員・技術員派遣</p>
スリランカ：	<p>研修施設建設支援（クルネーガラ県）</p> <p>調整員派遣</p>
東ティモール：	<p>人材育成活動支援（東ティモール地域開発研修センター）</p> <p>技術員派遣</p>
タイ：	<p>マングローブ植林活動（タイ南部ラノーン県）</p> <p>タイ北部植林活動（タイ北部 チェンマイ県チェンライ県等）</p> <p>調整員派遣</p>

Ⅱ. 「子供の森」計画事業

予算規模：87,445,000円

目的	<p>開発途上国の青少年を対象に、体験型環境教育プログラムの実施を通じて、緑の大切さ、自然の大切さへの理解を促進すると同時に、緑化を始めとした環境保全・増進に長期的な視野をもって貢献する。</p>
概要	<p>26の国と地域が参加し各国で子どもたちの植林活動支援や環境教育、教育支援等を、教育機関（小中学校等）単位で、子供たちが活動の主体となり学校内ならびに周辺地域の環境改善及び環境教育に取り組む。また今年、国際森林年、国連生物多様性の10年の開始年、国際青年年、さらには本事業の20周年を迎えることから、これらの国際年に貢献し、さらなる国や地域への普及・展開を図っていく。</p> <p>➤体験型環境教育プログラム実施1（植林等の保全活動）</p> <p>植林、育苗、堆肥づくり、農業体験、再生可能資源のリサイクル・リユース活動、地域の工芸品等の伝統的技術の実践、など</p>

	<p>(小・中・高校約 100 校 80 ヘクタール/ 15 万本の植林実施予定)</p> <p>➤体験型環境教育プログラム実施 2 (学びの要素重視の活動) ネイチャーゲーム、環境問題について学ぶ勉強会、自然林視察、環境教育講義など (約 100 校 10,000 人の児童・生徒対象)</p> <p>➤体験型環境教育プログラム実施リーダーの育成 プログラム推進の役割を担う参加校の教員、PTA、「子供の森」計画推進員 (調整員) を対象とする。(研修会 10 回、100 人対象)</p> <p>➤実施学校への環境整備 参加学校への文房具など教育備品の支援、教育設備の充実等</p> <p>➤各国子ども親善大使交流 (招聘交流) 本事業の実施国の青少年代表を招聘し、子どもたちの各国での取組成果等を発信するとともに、イベントや文化交流を通じて海外での森づくり活動の重要性についてメッセージ発信を行い、国内外の意識啓発を図る。</p> <p>➤評価活動 各活動を有機的につなげ、次年度以降の事業へ反映させる</p>
実施国	<p>バングラデシュ、カンボジア、中国、フィジー、インド、インドネシア、ケニア、マレーシア、ミャンマー、パプアニューギニア、フィリピン、スリランカ、タイ等</p>
活動対象	<p>新規参加校：100 校 (約 12,000 名) の児童・生徒 (過去実施校への活動フォローアップ含む)</p>

Ⅲ. 人材育成事業

予算規模：292,560,000円

海外の開発途上地域において、当該地域社会の中から開発プロジェクト・リーダーとして地域および国家の経済発展を担う、高い意欲を持つ若者及び日本の若者で活躍を目指す

者を対象とする実践的な人材育成を日本国内において実施する。

1. 一般研修訓練事業

目的	<p>開発途上諸国の農村社会の発展を担う主体となりうる現地青年を日本へ招聘して持続可能な地域開発に資する知識・技術を提供する。複数の国々の研修生が日本での集団生活を通して、様々な価値観を受け入れ、自国を客観的に見つめ直し、より国際的な視野の中で自国の発展を自ら考え実践できる人材を育成する。</p>
概要	<p>1. コース</p> <p>(1) 農業一般研修 日本の農業技術や経営、仕事への取り組む姿勢などの習得を目的とする。 「内容」農業基礎知等の講義及び試験栽培管理等、農業大学や公的機関の視察等</p> <p>(2) 農業指導者研修 農業指導員の補助的役割を担いながら指導に関する手法を学ぶ 「内容」研修指導員補助の現地体験等</p> <p>(3) 家政研修 農村地域や各家庭の活動の中で、女性のエンパワーメントを図る目的で学ぶ 「内容」栄養学、調理術、裁縫等の講義及び体験実習</p> <p>(4) 国際ボランティア 国際協力の概念・意義・現状についての知識習得及びマネジメント研修の実施 「内容」世界の農業事情・農村社会における地域開発論等の講義実務体験</p> <p>(5) 養蚕研修 養蚕農家において養蚕技術の習得及び経営管理に関する実体験 「内容」養蚕技術の基礎知識及び管理技術等</p> <p>(6) 環境保全型有機農業の指導者育成 持続可能な農業経営の構築及び環境配慮型農業、資源循環などの新たな農業生産技術の習得、アクションプランの立案等の実施 「内容」農業経営基本理念、環境教育の基礎、マネジメント技術等の講義及び体験学習</p> <p>2. 期 間： 平成 23 年 4 月 1 日～24 年 3 月 31 日 ※養蚕研修のみ 23 年 11 月末まで</p>

	<p>3. 基礎研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語を中心に規律訓練や日本の歴史、文化等を学ぶ ・ 入所より2ヶ月
研修生	33人（カンボジア、フィジー、インド、インドネシア、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、パキスタン、PNG、フィリピン、東ティモール、タジキスタン）
研修地	<ul style="list-style-type: none"> ・ オイスカ中部日本研修センター（愛知県） ・ オイスカ西日本研修センター（福岡県） ・ オイスカ四国研修センター（香川県） ・ オイスカ関西研修センター（大阪府） ・ 群馬県及び山梨県の養蚕農家（基礎研修のみオイスカ開発教育専門学校（静岡県））

2. 技能実習事業

目的	<p>発展途上国の地域産業を支える有能で意欲ある人材を招聘し、我が国で開発され培われた技能・技術・知識の習得による技術移転を通じて、その国の発展に寄与し得る人材の育成を目指すものである。</p>
概要	<p>1. 技能実習は農業分野と工業分野に区別される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 農業分野：施設園芸、畑作・野菜、養豚、養鶏、酪農など ➤ 工業分野：建設機械施工、機械加工、金属プレス、機械保全、ダイカスト、鋳造、溶接、印刷、内装仕上げ施工、電気メッキ、自動車整備など <p>2. 基礎研修（入国より一定の講義を受講）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 期間：2～3ヶ月 2) 内容：日本語会話・日本文化・習慣の学習を行う。また、日常生活を通じて日本社会の規則、マナー等を学ぶ。 <p>3. 技能実習</p> <p>農家及び企業等で実際に生産現場に従事しながら、労働関係法令の下、作物栽培や機械製作等あるいは販売やサービス業務に携わりながら技術・技能・知識を習得する。</p> <p>※ 平成21年7月の入管法改正により技能実習制度が一部変更（平成22年7月1日より施行）になったのを受け、平成22年7月以降は入国時より在留資格は「技能実習1号」とし、入国から1年後に技能の成果が一定水準以上に達し、在留状況が良好と認められるなどの評価（確認検査）を受けるための農業評価検定試験を受ける。</p>

	合格した者は技能実習 2 号の在留資格を取得し、入国より最長 3 年間の在留期間が可能となる。
技能実習生	85 人（バングラデシュ、インドネシア、マレーシア、PNG、フィリピン、タイ）
実習実施場所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集合研修： 国内 4 研修センター（中部日本、関西、四国、西日本） 及びオイスカ開発教育専門学校 ・ 技能実習： 農家及び企業等

3. 外務省 NGO 事業補助金事業

1) 組織運営・活動能力向上支援研修（オイスカ西日本研修センター）

目的	開発途上国における農村地域の発展は、それら諸国の経済社会の発展を推進していく上で最も重要な位置を占めている。そのため主体となりうる農村地域の青年に対し持続可能な地域開発と農村地域の全般的な発展に資する技術・技能・知識を提供し、現地 NGO・政府関係者を農村開発指導者としての能力向上の為に人材育成普及型研修を実施する。
概要	<p>「研修内容」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農村開発に関わる有機農業知識を分野ごとに身に付ける。 ・ 日本における農村社会の歩み、日本の農業に対する考え方や取り組み、伝統文化などを解説する。 ・ 環境保全型農業をフィールドでの実習を通して理解し実践する。 ・ プロジェクトのマネジメントについて学ぶ。 ・ 有機農業、資源循環、環境保全型農業などの新たな農業生産知識の習得。 ・ 農村女性のエンパワーメントを図る。 ・ 海外で地域開発事業を実施していく為の知識を来日研修で身に付ける。 <p>オイスカ所有の国内研修センターにおいて講義や試験栽培など非実務研修を主体とした研修を行うものである。</p> <p>「研修期間」平成 23 年 4 月 15 日～平成 24 年 3 月 14 日 基礎研修：2 ヶ月／日本語研修、世界の農業事情・農村社会における地域開発論等</p>
研修生	4 名（タジキスタン、ミャンマー、カンボジア、PNG）
研修地	オイスカ西日本研修センター（福岡県）

2) 組織運営・活動能力向上支援研修（オイスカ四国研修センター）

目的	開発途上国の農村女性は農業生産の担い手であるとともに、衣食住にわたり農村地域の発展に重要な役割を果たしている。一方で、女性の地位は依然として低く、経済的自立ができない状況下に置かれている。そのため、女性の地位向上を上位目標とし、現地NGO・政府関係者を農村女性の生活改善を指導する現地指導者としての能力向上を図る人材育成普及型研修を実施する。
概要	<p>「研修内容」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の生活改善の歴史、他団体の活動、農村調査等を通じて、普及員として必要な資質、知識、指導力の向上を図り、リーダーシップを身に付ける。 ・農村の生活改善に必要な各分野の基礎知識・技術を習得する。 ・研修した知識や技術を活かし、各国のニーズに合った生活改善、女性の収入向上を目的としたプロジェクトのアクションプランを作成する。 <p>「研修方法」講義・実習、見学、外部研修 1 週間</p> <p>「研修科目」農業生産の基礎（有機農業）、農産物加工、調理と食品学、栄養学、保健衛生、洋裁、環境、生活改善の機能及び活動</p> <p>「研修期間」平成 23 年 4 月 17 日～平成 24 年 2 月 28 日</p> <p>基礎研修：2 ヶ月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本に関する一般教養 ・日本語基礎 ・日本の農業
研修生	5 名（インド（チベット）、インドネシア、モンゴル、PNG、ミャンマー）
研修地	オイスカ四国研修センター（香川県）

4. JICA 受託研修事業

独立行政法人国際協力機構の委託を受けて実施する事業

1) 環境配慮型農業普及員育成研修

概要	多くの開発途上国では農業が国の基盤となっているが、昨今、農業による環境汚染や食の安全が問題となり、環境保全機能を持つ農業を如何に持続可能なものにしていくかが大きな課題となっている。持続可能な農業と
----	--

	<p>すべく有機農業の技術、特に土つくりを基本とした技術の習得、並びに、地域開発に貢献する人材の育成を目的とする事業。JICA を通じて参加者を募集、研修期間は 2 月～11 月の 9 ヶ月間であるため、年度内で 2 回の受入実施。</p> <p>1. 対象者：各国政府機関の農業分野に関わる職員や研究員、また NGO 等で活躍するリーダー要員等。</p> <p>2. 期 間： 第一回受入 平成 23 年 4 月 1 日～23 年 11 月 20 日 第二回受入 平成 24 年 2 月中旬～24 年 3 月 31 日</p> <p>3. 研修内容：</p> <p>① 世界の農業・食糧事情、農村社会における地域開発論、国際協力の理念・意義・現状、日本語基礎、日本文化などの基礎的知識の習得</p> <p>② 有機稲作・野菜・生育収量調査・土作り・病虫害防除・農業経営の基本理念・マネジメント技術能力向上の知識習得、農業経営体派遣研修など</p> <p>③ アクションプラン作成のための農村調査 埼玉、東京（有機農家視察、日本の産業・自然・伝統・文化についての学習 等）</p> <p>④ 技術討論会・研修成果評価会・修了式など</p>
研修生	<p>第一回受入 7 名（サモア、レソト、ザンビア、マラウイ）</p> <p>第二回受入 10 名（アジア、アフリカ、中南米、南太平洋、中近東など 国名は未定）</p>
研修地	オイスカ中部日本研修センター（愛知県）

2)農村における女性の経済的エンパワーメント促進のための農産物加工品の開発とマーケティング研修

概要	<p>農村女性の経済的自立及び持続可能な村づくりの実現を目指し、地域資源を活用した農産物加工推進の為の現地女性リーダーの能力向上を図る研修を実施する。</p> <p>1. 対象者： 女性でかつ収入向上や農村開発を進める農産加工プロジェクトを実施あるいはそのような組織を取りまとめている、政府機関、</p>
----	--

	<p>非政府組織、組合組織等の職員またはリーダー要員。</p> <p>2. 期 間：</p> <p>1) 平成 23 年 6 月 6 日～8 月 14 日（10 週間）</p> <p>2) 平成 23 年 9 月 12 日～11 月 20 日（10 週間）</p> <p>3. 研修内容</p> <p>① 女性のエンパワーメント手法</p> <p>② 農産物加工技術の基礎知識</p> <p>③ 農作物加工品の開発、試作、販売</p> <p>④ 地域資源を利用した地域活性化手法</p> <p>⑤ アクションプラン作成</p>
研修生	<p>第一回受入 10 人（エチオピア、ラオス、パキスタン、ソロモン、スリランカ、東ティモール、トンガ、ザンビア）</p> <p>第二回受入 10 人（アフリカ圏 国名は未定）</p>
研修地	オイスカ四国研修センター（香川県）

3)青年研修

概要	<p>開発途上国の将来を担う青年層を日本に招き、それぞれの国で必要とされている専門分野の日本の経験、技術の基礎的理解を付与する研修を行い、将来の国づくりを担う人材育成を実施する。</p> <p>1. 対象者： 収入向上や農村開発を進めるプロジェクトを実施あるいはそのような組織を取りまとめている、政府機関、非政府組織、組合組織等の職員またはリーダー要員。</p> <p>2. 期 間： 平成 23 年 11 月（13 日間）</p> <p>3. 研修内容</p> <p>JICA の指定する専門分野（平成 23 年 4 月に決定）</p> <p>昨年実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフガニスタン・地域における中小企業振興コース ・大洋州混成 農村振興コース
研修生	20 人（アジア、アフリカ、中南米、南太平洋の国と地域 国名未定）

研修地	オイスカ四国研修センター（香川県）
-----	-------------------

5. 日本の青年育成事業（国際協力ボランティア育成研修）

目的	<p>農業分野および国際協力の分野で即戦力となる日本人の若手人材の育成を通して、日本の国際協力分野での活動を牽引する。</p> <p>本事業は、国内外で推進する国際協力活動、及び関連業務（活動）を1年間の体験を通じて理解を深め、将来にわたって当法人を含むわが国NGO、さらには広く国際貢献を担う人材を養成する。また、日本において農業に従事したい青年を養成する。</p>
概要	<p>対象者：4名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・途上国での国際協力現場での活動を目指す日本の青年。 ・農業分野に就業予定の日本の青年。 <p>研修内容：</p> <p>農業実習体験、団体規律訓練、海外研修生との交流等</p> <p>海外での実務体験を希望する青年には、地域開発に関わる農業を主体とした専門的な知識を身に付ける海外活動現場での実務体験（研修業務、開発事業、庶務ほか）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本における農村社会の歴史、精神文化、日本人の農業に対する考え方や取り組み、規律などを理解する。 ・環境保全型有機農業をフィールドでの作業を通して理解し実践する。 ・プロジェクトの立案・運営手法について学ぶ。 ・有機農業のいろいろな形態について学び、その基本に迫る。 ・海外で事業を実施していく為の基礎知識を身に付ける。 <p>研修期間：</p> <p>研修期間：平成23年4月1日～平成24年3月31日</p>

IV. 啓発普及事業

予算規模：230,317,000円

1. 国内事業

人類が世界共通に抱える、自然環境破壊、地域間の経済格差、青少年の健全育成などの課題解決に向けて、森林保全等の実践的な取り組みを含めた様々な活動に、日本国内におけ

る一般市民および民間企業の参画を呼び掛け、それらの活動体験を通して意識喚起を促す。

1) 講演会・セミナー等の開催

海外および国内での活動事例を活用して、国際協力や環境問題、教育問題等をテーマに講演会やセミナー、交流会、チャリティバザーなど各種イベントを開催すると共に、各種団体のイベントへも参加し、より多くの人々へ国際協力活動や環境保全活動等への意識を啓発する。

管轄組織	事業名	日程等	参加者数	場所
北海道支部	第11回オイスカ「子供の森」計画支援 チャリティーディナー コンサート	12月～2 月の間の 1日	200名	札幌パークホテル 大 ホール
宮城県支部	支部設立30周年記念事業 (記念講演等)	未定	未定	未定
宮城県支部	支部活動報告会	未定	未定	未定
首都圏支部	海外技術員現地活動報告 会	4月、5 月、9月	未定	未定
首都圏支部	「森林の市」(林野庁主催) への出展	5月	—	東京都日比谷公園
首都圏支部	築地市場「ゴミ0」の日	—	—	築地市場
首都圏支部	「子供の森」計画20周年イ ベント	—	—	—
首都圏支部	オイスカ・アジアフェスティ バル開催	8月	—	東京都杉並区
首都圏支部	チャリティバザー	9月、2月	—	東京本部事務所
山梨県支部	環境シンポジウム	6月	100名	甲府商工会議所
静岡県支部	西部地区新春交流会(オイ スカ高校留学生との交流含 む)	1月	50名	浜松市
静岡県支部	新年活動報告会	1月	支局会員 114人	静岡市葵区あるいは静 岡市清水区
愛知県支部	オイスカ活動報告会	11月	60名	中部電力東桜会館
関西総支部	環境エキスポ2011ブース 出展(森のつみ木広場開催)	5月	—	万博博覧会記念公園

	等)			
関西総支部	関西女性フォーラム	—	—	—
関西総支部	ワンワールドフェスティバル ブース出展	2月	未定	大阪国際交流センター
関西総支部	「エコフェスタ in Expo Park」	11月	未定	万博博覧会記念公園
関西総支部	オイスカ関西のつどい	6月	未定	大阪国際交流センター
関西総支部	海外活動報告セミナー	未定	40	未定
広島県支部	オイスカ環境セミナー	5月		広島市内
四国支部	四国のつどい in 香川	未定	500名	香川県
愛媛県支部	愛媛の集い	10月	150名	伊予鉄高島屋 講演会 『子供たちの未来のため』
愛媛県支部	チャリティイベント	5月、10月	200名	松山市
西日本支部	アジア知事フォーラム	10月	—	熊本市
西日本支部	サマーナイト・フェスティバル	8月上旬	—	オイスカ西日本研修センター

2) 資料の作成・配布、インターネットでの情報配信

活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 広報誌「OISCA」発行 年間 75,000部 ➤ ニュースレター「ラブ・グリーンニュース」年間 15,000部 ➤ メールマガジンの発行、ウェブを通じた情報発信 他、各種意識啓発資料の作成・配布
------	--

3) 森林整備活動

目的	全国各地において植林や間伐・枝打ち等の森林整備活動を地域の住民ボランティアの参加を得て実施。地域住民組織やNPO、学校や行政、企業と連携し、持続可能な保全活動実施体制を確立し、広く森林整備の重要性を啓発する。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 企業等との協働による森林保全活動 企業、労働組合等との協働による森林保全活動の普及に努める。企業や行政のほか、研究機関や造林業者など多くの機関と協働し、得られた技

	<p>術やノウハウを活用し、広く森林保全についての理解を深めて頂く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富士山の森づくり <p>23の企業団体と共に「富士山の森づくり」推進協議会を設置して富士山の森づくりを進め、それによって醸成されたノウハウや技術を共有し、森づくりの必要性を深めて頂く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ホンダの森」 <p>山梨県小菅村・本田技研工業(株)・オイスカが協定を結び、山梨県小菅村で森づくり活動を行い、森づくりの重要性を多くの方々にとって頂く。</p> <p>➤ 竹林整備活動、海の森づくり、里山保全など全国各地において実施。環境保全活動の意義を広く理解して頂く。</p>
--	---

管轄組織 (実施主体)	事業名等	日程等	実施場所等
本部	富士山の森づくり事業	5月14日、21日、 28日 6月1日、4日	山梨県南都留郡鳴沢村
本部	ホンダの森(植林・下草刈り等)	4月、7月、9月	埼玉県寄居町、山梨県小菅村
本部	東急ホテルズ森づくり	4月、9月	山梨県丹波山村
本部 (沖縄推進協議会)	沖縄・伊是名植林活動	11月	沖縄県伊是名
北海道支部	第15回山・林・SUN体験 「子供の森」計画	春・秋2回の補植 作業	道民の森(石狩郡当別町字青山中央)3ha
宮城県支部	松島町民の森整備事業	通年	松島町民の森の一部
首都圏支部	「夕やけ小やけの里」整備	6月、10月、3月	八王子市・夕やけ小やけふれあいの里
首都圏支部	「富士山の森づくり」参加	5月	山梨県
首都圏支部	清水市大内地区「竹林整備事業」参加	4月	静岡県清水市
山梨県支部	オイスカの森づくり	年1回(下草刈り)	山梨県甲府市の県有林約3ha
山梨県支部	学校林活動	年10回程度	甲府市内の相川小学校、里垣小学校、北中

			学校
山梨県支部	オギノの森づくり	下草刈り(年1回)	山梨県甲府市川窪町民有林 1.79ha
山梨県支部	バジエロの森づくり	下草刈り(年1回)	早川町硯島財産区が所有する森林約 3ha
静岡県支部	放置竹林の里山整備	—	静岡市清水区大内地区
富山県支部	猿倉山里山保全森づくり 事業 2011	6月、10月	富山市内
愛知県支部	オイスカの森づくり	5月、10月	愛知県北設楽郡設楽町
関西総支部	ふれあいの森森林整備	5月、10月、3月	四条畷市ふれあいの森
関西総支部	NARA「子供の森」植林	11月	奈良県榛原町内牧の14haの山林
四国支部	尾瀬山植林活動	—	まんのう町尾瀬山
愛媛県支部	竹林整備	年6回	伊予市
愛媛県支部	オイスカの森 in 愛媛	年1回(春季)	松山市市有林
愛媛県支部	海外植林マレーシア	年1回(夏または秋)	マレーシア・マングローブ植林等
愛媛県支部	下草刈り活動	年2~3回	松山市 市有林(松山市市場町)
西日本支部 (甘木朝倉推進協議会)	「大平山植林」草刈り事業	年2回	朝倉市大平山
西日本支部 (鹿児島推進協議会)	「桜島オイスカ植林」事業 (草刈り)	6月、9月、2月	鹿児島市桜島白浜地区

4) 各種体験活動

農業体験や環境教育問題等のグローバルな課題を、実体験として深く認識してもらい、国際協力活動への自発的な参加協力を促す

①森のつみ木広場の開催

国内の森林管理で排出される間伐材から作った積木を利用して、子どもたちの創造性や協調性を育むとともに森林保全への意識啓発を図る。

管轄組織（実施主体）	日 程	対 象 者	開 催 場 所 等
本部 （三重推進協議会）	年 10 回	500 名	三重県内の公共施設、ほか
北海道支部	年 5 回	500 名	北海道内の学校、保育園、公共施設、ほか
宮城県支部	未定	—	宮城県内、ほか
静岡県支部	6 月～11 月	—	静岡県内の小学校、ほか
岐阜県支部	年 10 回	—	岐阜県下の保育園、ほか
長野県支部	年 9 回	—	長野県内
富山県支部	年 2 回	500 名	立山山麓音楽祭 2011(8月)、とやま環境フェア 2011(10月)
広島県支部	年 3 回	200 名	広島県内
愛媛県支部	年 3～4 回	各回 70 名	伊予市栄養寺、ほか
西日本支部 （甘木朝倉推進協議会）	年 4 回	—	福岡県朝倉市内学校、公民館ほか
西日本支部 （佐賀推進協議会）	年 5 回	—	佐賀県内の小学校、ほか

②海外ボランティア派遣

海外のプロジェクト地域へなどにボランティアを派遣し、現場の活動の実体験や現地の人々との対話を通して国際理解と地球緑化推進の必要性を広く理解して頂く

管轄組織 （実施主体）	事業名	日程等	実施場所等
本部 （茨城推進協議会）	日比学生交流事業	12～3 月	フィリピン・ネグロス島（日比青年交流センター、オイスカバゴ研修センター等にて交流等）

北海道支部	青年海外派遣事業(第3回地球環境保全をめざす日本の青年と海外青年との交流)	8月下旬～9月	フィリピン・ネグロス島(オイスカバゴ研修センター訪問交流、植林活動等)
北海道支部	海外派遣事業	未定	フィリピン・アブラ研修センター視察訪問・交流
宮城県支部	タイ北部植林フォーラム(視察)	9月頃	タイ北部(「子供の森」計画実施校訪問交流等)
首都圏支部	海外友好植林フォーラム	未定	未定
山梨県支部	地球環境再生フォーラム2011(内モンゴル)	8月	中国内モンゴル自治区阿拉善地区
静岡県支部	「第19回地球環境再生植林フォーラム2011」西ネグロスコース	8月	フィリピン・西ネグロス(ネグロス市、サガイ市等)
静岡県支部	オイスカ静岡・モンゴル友好植林フォーラム	5月頃	モンゴル・ウランバートル・スクバートル区ダンバダルジャー
岐阜県支部	海外派遣交流	未定	未定
富山県支部	アラシヤン砂漠植林体験と視察	8月	中国内モンゴル自治区阿拉善地区
広島県支部	フィリピン植林フォーラム	7～8月	フィリピン・アブラ州、イロコス州「子供の森」計画実施校訪問交流等
四国支部	ロンボク島植林ボランティア派遣	未定	インドネシア・ロンボク島(州都マタラム水源の森づくり15ha)
西日本支部 (甘木朝倉推進協議会)	みどりの翼「マレーシア・サバ植林ボランティア」派遣	8月	マレーシア・サバ州
西日本支部 (宮崎推進協議会)	「インド子供の森計画」植林ボランティア派遣	10月	インド(「子供の森」計画実施校訪問等)
西日本支部 (佐賀推進協議会)	「ラプグリーン佐賀」植林ボランティア派遣	8月	フィリピン(「子供の森」計画実施校訪問等)
西日本支部 (北九州推進協議会)	インド植林ボランティア派遣	10月	インド(「子供の森」計画実施校訪問等)
本部	オイスカ50周年海外記念行事	4月7日～8日	台湾・台北
本部	オイスカ50周年海外記念行事	7月30日～8月6日	アメリカ(インターナショナル総局発会式)

本部	オイスカ50周年海外記念行事	8月24～25日	フィリピン・ネグロス島
本部	オイスカ50周年海外記念行事	9月24日	スリランカ・コロombo
本部	オイスカ50周年海外記念行事	—	インド、ほか

③その他体験活動

「山・林・SUN」体験活動、農業体験留学生・研修生との交流会を実施し、環境保全活動や国際交流の必要性を実体験を通して広める。

管轄組織 (実施主体)	事業名	日程等	人数等	実施場所等
北海道支部	第15回山・林・SUN体験「子供の森」計画	春・秋2回の補植作業	70名	道民の森 (石狩郡当別町字青山中央)3ha
宮城県支部	学校林整備活動	通年	—	(松島第五小学校他)
首都圏支部	「海の森づくり」参加	11月	—	東京都お台場
山梨県支部	丹波山村 地域活性化事業、サミットの森づくり	年12回	—	山梨県丹波山村(施設クラインガルテンを拠点とした農業体験等)
岐阜県支部	「子供の森」交流会	2月	—	岐阜県下の小学校
長野県支部	子供の森体験活動	8月上旬	60名	長野県佐久市
長野県支部	学校林子供サミットin信州	8月	—	松本市
長野県支部	学校林整備活動	未定	1校	長野県内
広島県支部	山・林・SUN活動	7月下旬	100名	中国電力(株)の水源かん養林
広島県支部	研修生視察受入れ<関西>	年1回	5名	広島県内企業等
広島県支部	研修生視察受入れ<四国>	年1回	30名	広島県内企業等
愛媛県支部	研修生との交流会	年1回	—	松山市近郊
西日本支部	収穫感謝祭	10月下旬	250名	オイスカ西日本研修センター
西日本支部	集まれ地球体験村(国際交流、農業体験)	7月下旬	—	オイスカ西日本研修センター
西日本支部	朝倉うきは地区産業視察(研修生の企業視察等)	9月中旬	—	福岡県朝倉市

2. 国際交流・連携促進

海外協力機関との連携強化および持続可能な国際協力活動の更なる推進

1) 国際会議等の開催

目的	国際社会の動向と組織の戦略を踏まえ、国際機関や各国政府と連携しながら、国際協力・開発論に関する相互理解を行う。
概要	<p>1) 生物多様性保全及び復興活動推進のための国際会議 開催日：2011年10月6日～7日 開催地：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際会議室 参加者：オイスカ・インターナショナル各国総局及び支局及び関連協力団体より50名程度、各国政府・国際機関関係者及びアジア太平洋青年連合をはじめとする国内外青少年活動団体等より40名程度</p> <p>2) 東京フォーラム（国際協力活動推進意見交換会）：年1回 在日外交公館20カ国が一同に会して開発途上国における国際協力活動の近況報告、今後の活動方針及び課題の提起等行う。随時、各国政府機関及び国際機関等への成果報告および意見交換を実施することで協調関係の強化、ネットワークの構築を図る。政治情勢による事業の中断をできる限り避け、持続可能な開発協力の実施に向けて相互理解に努める。</p>

2) 海外協力機関との交流促進

①国際連携

目的	国連をはじめとする国際機関主催の会議に出席し、国際社会が取り巻く環境の変化、持続可能な国際協力・開発のあり方について意見交換、連携模索を行う
概要	*国連 NGO 委員会、環境保全活動、青少年育成団体等が主催する会議への参加：年2回

②海外派遣グループ受入れ

海外協力機関等からの視察グループを受入れ、日本国内の活動事例を通じ連携協力体制の強化を図る。

管轄組織(実施主体)	事業名	日程等	人数等	実施場所等
宮城県支部	台湾農業青年交流団受入	9月頃	数名	宮城県古川地区、山形県最上町にて、主として農業関係研修
静岡県支部	台湾農村青年交流団受入	9月頃	数名	周智郡森町

長野県支部	台湾国際農村交流団受け入れ	9月頃	数名	長野県内
本部 (福島推進協議会)	福島 CFP 交流会	5月	—	福島県内の児童と海外の「子供の森」計画実施校児童との交流
岐阜県支部	オイスカ50周年来日交流団受け入れ	5月	—	海外の「子供の森」計画実施校児童との交流
西日本支部	「子供の森」計画親善大使招聘	5月	—	海外の「子供の森」計画実施校児童との交流

V. 収益事業

固定資産等の有効活用や公益目的事業と位置づけられない受託事業の実施

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1) 駐車場等賃貸 (東京都、福岡県) | 収入額 : 7,664,000 円 |
| 2) 農場管理受託 (愛知県) | 収入額 : 3,412,000 円 |

VI. 組織の運営

- 1) 50周年記念行事の開催
- 2) 理事会・評議員会等の開催

以上